

東日本大震災 3年

復興庁が2月にまとめた東日本大震災に伴う避難者等の登録数は、近畿以西で岡山県が最も多の1046人。全国的には減少傾向にある中で着実に増え続けている。原発事故後の社会像を研究する後藤範章日本大教授(57)は、県内の避難者ら約20人に聞き取り調査を行った。「岡山県では新しい社会づくりの大きな実験が進んでいる」と注目する後藤教授に、「なぜ岡山なのか」を分析してもらった。(聞き手・清水玲子)

支援組織に有能な調整人

岡山へ避難なぜ多い

2012年から広域避難者が多い岡山県と沖縄県石垣市で調査した。岡山では大震災の5日後、多様な地元住民が「おいでんせえ岡山」(逢沢直子代表)を立ち上げた。石垣でも震災前に移り住んだ人々が、早々に避難者の受け入れを始めた。3年たち、2地域に

県内で聞き取り調査
後藤日本大教授に聞く

一定距離持つ県民性も

大きな違いが見える。イターとなっている。イ、コーディネーターに協力しているが、リは、避難者らによる「子どろ」になるケースは、イター(大塚愛代表)は、ホームページやメルルニュースだけでなく、フェイスブック(交流ワークを構築。行政流サイト)やツイッターは、岡山で初めて地域

地元では「岡山県民の関わりを経てさらに他人に淡泊、冷淡」大きな力になつていと言うそうだが、都会から来る人にはその県民性(能力開化)「災害エンパワメント」と表現している。「一定の距離を持つて付き合ひ、困っているときには助けてくれるので安心」という声が多かった。最も注目すべきことは、岡山のように、移住者が地域の中で表に出て活躍できる環境がある地域は、震災以前とガラッと変わっている。岡山のように、移住者が地域の中で表に出て活躍できる環境がある地域は、震災以前とガラッと変わっている。岡山のように、移住者が地域の中で表に出て活躍できる環境がある地域は、震災以前とガラッと変わっている。

を巻き込むことにも成功している。

岡山が避難者を吸引する要因として温暖で自然災害が少なく原発から遠いことが挙げられるが、それ以上に調べるべきは、発言

査から分かったことは、避難者は意見が、人と関わる中で眠りつつあった能力を開花させ、その能力は他者と

を巻き込むことにも成功している。

岡山が避難者を吸引する要因として温暖で自然災害が少なく原発から遠いことが挙げられるが、それ以上に調べるべきは、発言

査から分かったことは、避難者は意見が、人と関わる中で眠りつつあった能力を開花させ、その能力は他者と

を巻き込むことにも成功している。

岡山が避難者を吸引する要因として温暖で自然災害が少なく原発から遠いことが挙げられるが、それ以上に調べるべきは、発言

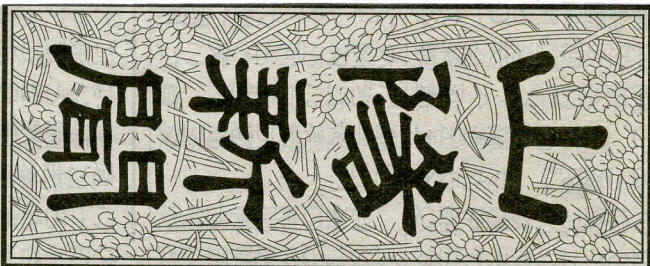
査から分かったことは、避難者は意見が、人と関わる中で眠りつつあった能力を開花させ、その能力は他者と

を巻き込むことにも成功している。

岡山が避難者を吸引する要因として温暖で自然災害が少なく原発から遠いことが挙げられるが、それ以上に調べるべきは、発言

査から分かったことは、避難者は意見が、人と関わる中で眠りつつあった能力を開花させ、その能力は他者と

ごとう・のりあき 1956年長野県生まれ。日本大大学院博士後期課程修了。同大講師、助教授などを経て2002年から現職。12年から全国の社会学者と取り組む共同研究「原発事故に伴う広域避難と支援の社会学—転換後」の社会像と生き方モデルの探究」の代表を務める。



3月13日

木曜日

山陽新聞社

新聞製作センター

岡山市北区朝日2-1-1 18